

日本メキシコ外交関係樹立 130 周年記念レセプション

2018 年 11 月 26 日、東京

11 月 22 日在日メキシコ大使館にて、日本メキシコ外交関係樹立 130 周年記念レセプションが開催されました。両国の外交関係は 1888 年に日墨修好通商航海条約が締結されてから始まりました。メキシコにとってアジアの国との最初の条約であり、日本にとってはアジア以外の国との最初の平等条約でした。

レセプションには政治・ビジネス・学術・文化といった各方面の関係者らが参加したほか、中曽根弘文日本メキシコ友好議員連盟会長、辻清人外務大臣政務官、中前隆博外務省中南米局長、経団連日本メキシコ経済委員会を務める ANA ホールディングスから藤村修一取締役常務執行役員、林信秀みずほ銀行取締役会長、竹内元 JICA 中南米部長、日墨交流計画の創始者でありオクタビオ・パス氏とともに両国文化の架け橋となった林屋永吉大使のご子息である林屋明夫氏、昨年 9 月に起こったメキシコ地震での救助活動にあたるため現地へ派遣された救助チームの団長を務めた川崎敏秀氏、前田匡史国際協力銀行代表取締役総裁、森田嘉一在京都メキシコ名誉領事、悲劇の 10 日間と呼ばれるクーデターの際マデロ大統領一族を救った堀口九萬一臨時代理公使のご令孫である堀口すみれ子氏らが、二国間関係に貢献した代表者として参加しました。



メキシコにとって日本との関係は世界でもとても重要且つ意義をもつ関係のうちの一つです。日本はアジアでの重要なパートナー且つ同盟国であり、メキシコにとって世界規模で第四位の貿易相手国であり、第一位の投資元国且つ同じく第一位の訪墨観光客数を誇る国です。また両国は共通の価値観を共有し国際レベルで重要な見解も一致しており、世界の平和と安全、軍備縮小、核不拡散、人間の安全保障、気候変動といった地球規模の諸課題において緊密な協力関係を維持しています。
